

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成26年2月10日

【四半期会計期間】 第131期第3四半期(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)

【会社名】 株式会社ロブテックス

【英訳名】 L O B T E X C O . , L T D .

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 地引俊為

【本店の所在の場所】 大阪府東大阪市四条町12番8号

【電話番号】 072-980-1110(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役上席執行役員 管理本部長 山口正光

【最寄りの連絡場所】 大阪府東大阪市四条町12番8号

【電話番号】 072-980-1110(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役上席執行役員 管理本部長 山口正光

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第130期 第3四半期 連結累計期間	第131期 第3四半期 連結累計期間	第130期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (千円)	3,866,037	3,955,421	5,442,422
経常利益 (千円)	214,961	318,970	345,410
四半期(当期)純利益 (千円)	129,436	173,257	222,920
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	130,381	210,440	231,763
純資産額 (千円)	2,381,944	2,670,060	2,483,326
総資産額 (千円)	6,768,413	6,698,534	6,830,167
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	13.75	18.41	23.68
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	33.8	38.1	34.9

回次	第130期 第3四半期 連結会計期間	第131期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	5.67	6.40

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は政府による経済政策や日銀の金融緩和の導入により、円安の進行や株価の回復がみられ、企業収益が改善し、個人消費も持ち直すなど、緩やかな回復基調となりました。しかしながら、円安による原材料価格の上昇や電気料金の値上げ、新興国の経済成長鈍化などの景気下振れ要因もあり、国内外経済の先行きは予断を許さない状況が続いております。

このような状況の下、当社グループは中期経営計画の最終年度である2013年度を攻めの姿勢に転ずるための企業体質改善の総仕上げの年度とし、昨年度に引き続いて、経営スローガンを「グループ全員が自らの使命を果たし一丸となって強い組織をつくります」と定め、社員一人ひとりがそれぞれに課せられた使命・役割を着実に、確実に果たしていくことを徹底し、組織の力を強め、真の実力を持った企業グループ体制を築くことに取り組んでまいりました。その結果、売上高は前年同期比2.3%増の39億5千5百万円（前年同期38億6千6百万円）となり、利益面では、原価低減の推進や経費管理の徹底効果に加え、退職給付信託資産の運用益の発生もあって、営業利益で同33.3%増の3億7千3百万円（同2億8千万円）、経常利益で同48.4%増の3億1千8百万円（同2億1千4百万円）、四半期純利益で同33.9%増の1億7千3百万円（同1億2千9百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

金属製品事業

国内売上は総じて堅調に推移しており、ハンドツール部門ではレンチ類や万力類、電設工具などが拡販努力により増加し、ファスニング部門では、ファスニングツールが新型コードレスリベッターの好調な販売並びに新型エアリベッターのラインアップ追加により増加し、工業用ファスナーにおいても売上が回復しましたが、切削工具部門では不採算商品の取扱中止などにより売上が減少しました。海外売上は主力販売国である韓国や米州などにおいて回復基調となり、ハンドツール部門では圧着工具は拡販努力により増加し、ファスニング部門においてもファスニングツールが拡販努力並びに新型エアリベッターのラインアップ追加により増加しました。その結果、金属製品事業の合計売上高は前年同期比2.6%増の37億7千8百万円（前年同期36億8千2百万円）となりました。利益面では、営業利益が同46.6%増の2億9千万円（同1億9千8百万円）となりました。

レジャーその他事業

ゴルフ練習場への入場者数が前年同期に比し減少したことに加え、お客様一人当たりの売上高の低下傾向は継続しており、売上高は前年同期比3.5%減の1億7千6百万円（前年同期1億8千3百万円）となりましたが、営業利益は経費管理の徹底による設備維持費用の低減等により、同0.9%増の8千2百万円（同8千1百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は66億9千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億3千1百万円減少しました。

(資産)

流動資産は前連結会計年度末比3千3百万円減の41億1千8百万円となりました。これは主に現金及び預金や受取手形が増加する一方で、売掛金やたな卸資産が減少したことによるものです。

固定資産は同9千8百万円減の25億7千9百万円となりました。これは主に投資有価証券の時価評価による増加がありましたものの、減価償却及び除却による有形固定資産の減少があったことによるものです。

(負債)

流動負債は前連結会計年度末比3千3百万円減の29億2千7百万円となりました。これは主に短期借入金やリース債務の増加がありましたものの、未払法人税等や買掛金が減少したことによるものです。

固定負債は同2億8千4百万円減の11億円となりました。これは主に長期借入金及びリース債務の減少によるものです。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末に比し1億8千6百万円増加し、26億7千万円となりました。これは主に四半期純利益の計上による利益剰余金及び投資有価証券の時価評価に伴うその他有価証券評価差額金の増加によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は8千万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	45,000,000
計	45,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年2月10日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	10,000,000	10,000,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は1,000株であります。
計	10,000,000	10,000,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
平成25年10月1日～平成25年12月31日		10,000,000		960,000		491,045

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 589,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,347,000	9,347	
単元未満株式	普通株式 64,000		
発行済株式総数	10,000,000		
総株主の議決権		9,347	

(注) 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式が465株含まれております。

【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ロブテックス	大阪府東大阪市四条町 12番8号	589,000		589,000	5.89
計		589,000		589,000	5.89

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

(取締役に対する利益連動給与)

当社は取締役に対して次の算定方法に基づき、法人税法第34条第1項第3号に定める利益連動給与に該当する役員給与を支給することとしております。

取締役社長の場合

算定方法 連結当期純利益の4.737%
支給限度額 18百万円

取締役の場合

算定方法 連結当期純利益の0.379%
支給限度額 1百万円

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,474,373	1,650,746
受取手形及び売掛金	1,167,305	952,083
商品及び製品	929,213	930,542
仕掛品	254,776	232,074
原材料及び貯蔵品	175,066	186,356
その他	155,669	172,498
貸倒引当金	4,695	5,637
流動資産合計	4,151,708	4,118,663
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	913,426	860,646
土地	738,508	738,508
その他(純額)	680,433	622,260
有形固定資産合計	2,332,368	2,221,415
無形固定資産	39,330	32,079
投資その他の資産	¹ 306,759	¹ 326,376
固定資産合計	2,678,458	2,579,870
資産合計	6,830,167	6,698,534
負債の部		
流動負債		
買掛金	258,199	210,468
短期借入金	2,212,160	2,264,573
未払法人税等	105,557	43,845
その他	385,363	408,959
流動負債合計	2,961,281	2,927,846
固定負債		
長期借入金	1,042,829	881,876
退職給付引当金	47,112	35,671
役員退職慰労引当金	3,120	3,120
その他	292,497	179,961
固定負債合計	1,385,559	1,100,628
負債合計	4,346,840	4,028,474
純資産の部		
株主資本		
資本金	960,000	960,000
資本剰余金	491,045	491,045
利益剰余金	1,029,340	1,179,069
自己株式	148,545	148,723
株主資本合計	2,331,841	2,481,391
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金	50,027	73,502
その他の包括利益累計額合計	50,027	73,502
少数株主持分	101,457	115,165
純資産合計	2,483,326	2,670,060

負債純資産合計	6,830,167	6,698,534
---------	-----------	-----------

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	3,866,037	3,955,421
売上原価	2,484,377	2,537,967
売上総利益	1,381,659	1,417,453
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	361,376	349,738
その他	740,242	694,467
販売費及び一般管理費合計	1,101,619	1,044,205
営業利益	280,040	373,247
営業外収益		
受取利息	271	1,830
受取配当金	6,958	7,038
受取家賃	5,774	5,763
その他	10,703	10,636
営業外収益合計	23,708	25,269
営業外費用		
支払利息	54,769	44,739
売上割引	34,011	34,768
その他	5	38
営業外費用合計	88,787	79,546
経常利益	214,961	318,970
特別利益		
投資有価証券売却益	3,388	-
特別利益合計	3,388	-
特別損失		
固定資産除却損	392	19,430
特別損失合計	392	19,430
税金等調整前四半期純利益	217,957	299,539
法人税等	82,216	113,527
少数株主損益調整前四半期純利益	135,740	186,012
少数株主利益	6,304	12,754
四半期純利益	129,436	173,257

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	135,740	186,012
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,359	24,428
その他の包括利益合計	5,359	24,428
四半期包括利益	130,381	210,440
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	124,184	196,732
少数株主に係る四半期包括利益	6,196	13,707

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
投資その他の資産	7,665千円	7,524千円

2 手形割引高

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
受取手形割引高	123,637千円	195,275千円
輸出手形割引高	96,011千円	68,159千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
減価償却費	184,644千円	160,726千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月21日 定時株主総会	普通株式	23,530	2.50	平成24年3月31日	平成24年6月22日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の未日後となるもの
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月20日 定時株主総会	普通株式	23,528	2.50	平成25年3月31日	平成25年6月21日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の未日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	四半期連結損 益計算書計上 額(注)2
	金属製品事業	レジャーその他 事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	3,682,967	183,070	3,866,037		3,866,037	3,866,037
セグメント間の 内部売上高又は振替高						
計	3,682,967	183,070	3,866,037		3,866,037	3,866,037
セグメント利益	198,429	81,610	280,040		280,040	280,040

(注)1 当社には、報告セグメントに含まれない事業セグメントはありません。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	四半期連結損 益計算書計上 額(注)2
	金属製品事業	レジャーその他 事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	3,778,728	176,692	3,955,421		3,955,421	3,955,421
セグメント間の 内部売上高又は振替高						
計	3,778,728	176,692	3,955,421		3,955,421	3,955,421
セグメント利益	290,915	82,331	373,247		373,247	373,247

(注)1 当社には、報告セグメントに含まれない事業セグメントはありません。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	13円75銭	18円41銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	129,436	173,257
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	129,436	173,257
普通株式の期中平均株式数(千株)	9,412	9,411

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月6日

株式会社ロブテックス

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小山 謙 司 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 森 村 圭 志 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ロブテックスの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ロブテックス及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。